



書あり 師あり 友ありて

人権作文発表会について

学校長 平田 高之

本校では、毎年夏休みの課題としている人権作文の発表会を実施しています。

まず、各学級で班の中で読み合いをし、班代表の1名を決めます。班代表6名は学級の生徒の前で発表する等により、学級代表1・2名を決めます。その後、「学年人権作文発表会」で、各学級代表者が、学年の生徒の前で発表し、学年の代表者を2・3名決定します。そして、「全校人権作文発表会」で、その各学年代表者が、全校生徒の前で発表するというもので、9月25日（水）に行われました。どの作文も素晴らしい内容でしたので、簡単に紹介させていただきます。

○1年生

1年3組 「魚と僕」

魚や海洋生物が好きということで、環境問題について、たばこの吸い殻、世界的な問題となっているプラスチックごみが及ぼす海洋汚染について考えた作文でした。自分たちが身近にできるクリーン・アップキャンペーンへの参加の呼びかけ等、一人一人の意識の大切さを伝えようとする内容でした。

1年4組 「見た目は違っても同じ人権」

自分自身のイギリスや日本に来た時の経験をもとに、差別とは何か、差別のない社会をつくるためにどうしたらよいかを考えた作文でした。特に、日本での学校生活の経験から、身近なところからできることをやっていけば、社会や世界の平和にもつながるといった内容でした。

○2年生

2年1組 「人を思う心」

いじめについて、自分自身の経験をもとに、いじめが起これないようにするためにどうしたらよいか真剣に考えた作文でした。相談することの大切さ、周囲の理解や協力、そして、何より、人の心を思う大切さを伝える内容でした。

2年3組 「個性だから」

自分自身の経験から、人間を外見だけで判断することが人をどれだけ傷つけるかという思い、短所と思っていたことも、周囲のアドバイスで、考え方や発想を変えることができ、それを個性だと思えた。だからこそ、人それぞれの違いを個性として認めることができることの大切さを力強く伝える作文でした。

○3年生

3年2組 「困っている人を支える」

全盲の方が、点字ブロックを歩いていた所、点字ブロック上で話をしていた人にぶつかった場面に遭遇し、点字ブロックの意味や障害について考えた作文でした。点字ブロックについて調べる中で、立場の違いからメリット・デメリットがあることに気づき、すべての人が安心して暮らせる社会を実現するためには、何が必要かを問いかける内容でした。

3年3組 「障害と現実」

自分自身の障害をもとに、幼少期から小・中学校生活での、さまざまな実験をもとに、障害とは何かを考えた作文でした。障害を乗り越えるにあたり、周囲の理解や友達への感謝の気持ちを、実際の出来事を振り返りながら、その思いを伝える内容でした。今後の目標も含め、これからはがんばって障害と向き合っていくという力強い思いで締めくくられていました。

3年4組 「ケガから学んだこと」

中学2年生の時の大きなけがのためにした手術やリハビリの苦しい時に、何を考え、感じたかを作文にしたものでした。命の大切さ、当たり前ができることや、特に、部活動におけるさまざまな周囲のサポートへの感謝から、自分自身も周囲に対してやさしくありたいという思いが伝わる内容でした。

いずれの作文も素晴らしく、発表も堂々としていました。内容が良かったこともあったと思いますが、全校生徒の聞く姿勢も大変素晴らしく、より良い会になったと思います。残念ながら、出張で校外に出ているため、各学年の「学年人権作文発表会」を聞くことができなかったのですが、各学年の先生方からは、学年で発表された作文も素晴らしい内容だったと聞いています。

夏休みの宿題が多いので減らしてほしいという中に人権作文があると聞いたりもしますが、人権についてじっくり考え、そして作文を書くことは、中学生にとってとても大切なことだと改めて実感しましたし、是非、ご家庭でもその内容についてお話をさせて頂けたらと思っています。



ビブリオバトルもやっています

本校では、各学年で方法は違いますが、国語の授業の中で「ビブリオバトル」も行っています。「ビブリオバトル」とは、Biblio（本を意味する接頭語）+battle（戦い）を合わせた言葉で、2007年に京都大学の谷口忠大氏によって考案され、参加者同士で本を紹介しあい、もっとも読みたい本（チャンプ本）を投票で決めるというものです。「知的書評合戦」とも呼ばれ、本との出会いはもちろん、学力を支える読解力や、他者の考えを理解する力、自分の考えを伝える表現力が養われるということで、最近では、中高生や大学生による大会等が開催されています。明石市でも「本のまちあかし」ということ、さらに、これからの時代に求められる主体的・対話的で深い学びにつながる読書活動ということで、各小・中学校で推進しているところです。

私は10年近く前でしたが、県教育委員会が主催したビブリオバトル県大会を見に行ったのですが、高校生のプレゼンが大変素晴らしく、その帰りに紹介された本を思わず買ってしまった経験があります。先日は、3年生4組の授業を見に行ったのですが、選書、そして、プレゼンともその高校生に負けないくらい素晴らしく、思わず読みたい本がたくさんありました。これも、朝の読書や普段の国語等の授業での積み重ねの成果だと感じました。是非、お子様がどんな本を選んだのか、どんなプレゼンをしたのか等を、ご家庭でお話をさせて頂きましたら、生徒たちの読書の世界がさらに広がると思いますので、よろしくお願ひします。